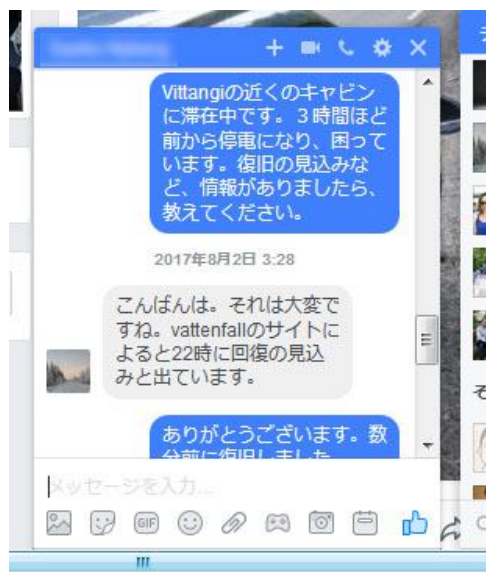


「北極圏旅行記 2017 夏 (32)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋
～8/2 ロバニエミへの道～

この日、マスグンス村のあるノルボッテン州北西部は、午後から夕方にかけて、激しい雷雨に襲われた。このキャビンの近くでも、雷鳴と電光が激しく、4時間近く停電になってしまった。幸い、海外用のWiFiルーターとパソコンはバッテリー駆動だったので、メールその他で、外部と連絡はとれた。



私は facebook のチャット機能を利用して、スウェーデン北部に在住の友人の日本人に助けを求めた。すぐに返事が来て、復旧情報がわかった。海外でトラブルに遭った時は、こういう援助は本当に有難い。



夜9時ぐらいになって、やっと電力が復旧した。夏でよかった。冬なら午後2時で真っ暗だし、暖房もほとんどパネルヒーターなので、外気温氷点下30℃では

凍死する恐れもある。車に避難するしかないだろう。



翌朝は晴れていた。このキャビンは国道のすぐ脇にあるが、国道の通行量は非常に少ないので、静かに過ごせるのが良い。国道を挟んで向かい側には小さなスキー場もあり、冬はロープトロー（簡易リフト）も動くという。「スノー・キャビン」の名の通り、真冬に来てこそ、本当の価値がある宿泊施設のようなのだ。



「スノー・キャビンから見たオーロラ」



「スノー・キャビンの冬景色」(上下 オーナー撮影)



この日は、ロバニエミに向けて、国道 395 号線を走る。時々驟雨に遭ったが、交通量も少なく、快適なドライブだった。(トイレや売店も少ない)



フィンランドに入っても、風景は大きく変わらない。ただ、なぜかトナカイが多く、ちょっと運転には注意が必要だ。



Junosuando (ユunosアンド)、Pajala (パヤラ) などの小さな街を抜けて、Pello (ペッコ) という、「河童の三平」に出てくる妖怪のような名前の街で、トーネ川を渡る。ここが、フィンランド国境である。



約4時間で出発点の街「ロバニエミ」に着いた。3カ国(のべ5カ国)総走行距離約2200kmの旅だった。最後に寄ったのは、「サンタクロース村」。私は何度も来ているが、ショッピングには楽しい場所だ。



今回の旅行で、陸路で国境を超えるのは、これで4回目になる。いずれも何の検査も旅券チェックもないので、国境を越えて旅行をしているという実感は、まったくない。せめてパスポートにスタンプが欲しい。



白い線が北極圏の境界線。写真では、線の右側が北極圏になる。今日はロバニエミで1泊する。北極圏最後の一晚ということになる。